

V04a MAGNUMプロジェクト(1). 概要と進捗状況

小林行泰^{1,4}、吉井謙³、峰崎岳夫³、塩谷圭吾⁴、菅沼正洋^{1,2}、富田浩行^{1,2}、青木勉³、他
MAGNUM チーム (国立天文台¹、東大理²、東大理セ³、総研大⁴)

MAGNUM プロジェクトの概要と進捗状況を報告する。

MAGNUM プロジェクトとは1995年度より東大COEプログラムによりスタートした計画で、多数の活動銀河核の可視赤外多波長モニター観測を行なうことにより、これら活動銀河核までの距離を測定し、最終的には宇宙パラメーターを求めることを目的とするものである。

全体の観測システムは、機能を必要最小限に抑えることにより、経費の削減をはかりながらもモニター観測に単機能適化することにより、高い性能を備えたものとなっている。観測システムの中心となる口径2 m望遠鏡は薄メニスカス主鏡を採用、経緯台架台を備え、合成F9のカセグレン焦点には3次鏡を回転させることにより4つの観測装置をきり替えることができるポートを装備している。また、遠隔地での運用を考慮し、システムの自動化に重点を置いた。

プロジェクトではマウイ島ハレアカラ山頂にこの口径2 m望遠鏡を設置し、これに可視赤外線測光撮像機能を備えた多波長カメラを装着、長期間のモニター観測を行なうこととしている。1999年度中には試験観測が開始される見通しである。